

○吃音 積志小 氏原里美先生

- ・吃音カフェ、いいアイデアですね。自分も吃音の親子の交流会を何年か前にやったことがありますが、保護者にとっても子供にとっても、「仲間がいる」ということが何よりの力になることを感じました。年齢の近い子が集まれば、また交流会を持ちたい、という気持ちはありますが、吃音の相談はあっても通級する子どもの絶対数が少ないので、現在は、なかなか交流会を企画できないでいます。コロナ禍ということもありますね。また、機会があればやりたいなと思っています。その時は参考にさせていただこうと考えました。発表ありがとうございます。
- ・現在、吃音症状のある子が1名なので、同じだな、と感じることのできるきつおんカフェの取り組みを真似することはできないのですが、これから吃音の子が入級してきた時には複数で交流する実践をやってみたいと思います。
- ・今吃音の子がサテライトなので、本校に吃音の子がいる場合、zoomでつないで交流してもいいのかなと思ったのですが、実際に一度顔を合わせてからでないと余計な緊張感を持たせてしまう気がします。保護者のお仕事が休めない問題もあるので難しいです。
- ・うつ症状のお子さんの事例は、今まさに中学への進学を不安を抱えてがんばりすぎている子がいるかもしれないと思います。注意してみる視点を与えていただけてよかったと思いました。
- ・NHKforSchoolで吃音が題材の映像があることを初めて知りました。吃音がある子本人に見せてもいいな、と思いました。
- ・本校では、コロナの影響で保護者が集まるような会が2年間できていません。保護者の方が同じ悩みを持つ人達と繋がることのできるのはとても大切だと思いました。ことばの教室が架け橋となるためにも、保護者会は必要だと思います。コロナ禍でもできることを工夫して来年度は計画していきたいです。
- ・吃音カフェのような、親の交流の場をつくりたいと発達通級でも思っていたが、中には「通っていることをだれにも知られたくない。」と思っている方もいて実現できていない。コロナの状況が落ち着けば、取り組んでみたいと思った。
- ・吃音カフェは保護者同士が関わったりつながれたりし、吃音に対する理解を深めたり不安を軽減させたりできる大変心強い場になっていることを感じた。親の不安が軽減することで子どもにも良い影響があるため、とてもよい取り組みだと感じた。
- ・吃音は、本人と保護者の悩みを受け止め、きめ細やかな対応や周りへの理解を広めていくことの大切さ切さを改めて感じた。
- ・保護者の交流の場が少ないと思うので、このような場がもっと増えるように環境を整えていきたい。
- ・小学校に幼児と児童の教室があることを生かし、連携がとても上手に取れていると感じた。
- ・卒園と同時に幼児のことばの教室は終了してしまうので、その後小学校へ行ってもつながれる場があることは保護者にとって安心できると思った。
- ・幼児ことばの教室の保護者にとって、小学校の様子を聞くことで、不安が軽減することを改めて感じた。自分たちの通級指導教室でも、吃音のお子さんの保護者同士の茶話会を年1回実施している。ただ、幼児ことばの教室とは場所が離れているため、一緒に実施できてはいない。今回の発表から、吃音については、幼児と児童の教室の連携がとても大切であると感じたので、今後、幼児ことばの教室と話し合い、連携して実施できたらと思った。

- ・吃音のお子さんを持つ保護者で集まって、語り合う機会というのは作ったことがないので、参考になりました。お互いの話を聞き合うことで、共感したり新しい発見があったりして、保護者の方が元気になると思えました。それが子どもにもいい影響を与えるのだと思います。保護者を支えていくことが大切だと改めて感じました。ありがとうございました。
 - ・子どもたちだけではなく、保護者の方にも支援をしていくという通級のよさを改めて感じました。幼児の保護者の方にとって、幼児と学齢の保護者の方同士の交流や、学齢の先生とお話ができることは、貴重な機会だと思います。コロナ禍で、様々な制限もありますが、「きつおんカフェ」のように、保護者の方の心が軽くなれる支援を考えていこうと思います。
 - ・「きつおんカフェ」という名前がまず、素敵だなと感じました。吃音の悩みや不安は当事者同士でしかわからないので、みなさんで集まりいろいろな話をするのはとても大事だと思います。「カフェ」という名前がつくことで、気楽に語り合える場所になると思います。また、経験談を語ることができる人をメンバーの中に入れることもとても良いことだと思います。
 - ・吃音の治療は未確立であり、保護者も不安な事が多いかと思えます。報告のように、保護者や情報共有することで、保護者の気持ちの安定にもつながりますし、親の気持ちの余裕が子の発話にも良い影響を及ぼすと思えます。このようなカフェに、クラスの担任が参加するなどして、理解が担任にも広がると、子が安心して話せる環境が増えるのではないかと思います。
 - ・吃音のある子やその保護者にとって、「仲間がいる」「悩みに共感してくれる」「相談できる」場所があることがとてもいいなと思えました。吃音に対する理解のある人が増えれば、安心して生活できると思います。
-
- ・「きつおんカフェ」は、吃音で悩んでいる保護者同士が交流し、情報収集でき不安を軽減できる貴重な場所になっていると思います。保護者への対応もとてもたいせつなことだと思いますが、吃音の子に対して、ことばの教室の先生がどのような指導を行っているか具体的に知りたかったです。
 - ・ネーミングも含め、素敵な実践ですね。コロナが早く収束することを望みます。当事者は子どもですが、その保護者も視点を変えれば当事者になり得ると感じます。（これは吃音の場合だけでないですが。）氏原先生は、ご自分ももっと吃音についての理解を深めていきたいようなことを終わりに書かれています。なかなか難しい部分でもあります。それを補う目的も有り、先生が様々な資料やゲストを準備されているのがとてもよいです。担当者が一人で話したり相談に答えたりすること以上に意味のあることだと思います。私も通級担当をしていますが、わからないことや知らないことも多く、いろいろな方から教えてもらっています。身近にあるリソースを有効に使う、組み立てて提供することも通級の役割だと思って、私も実践しています。これからもぜひ、吃音カフェを続けていってくださいね。
 - ・「吃音カフェ」ぜひやってみたいなあと思いました。吃音が主訴で通級したおさんは、一年に多くて2人です。グループ指導も行っていないので、保護者同士の繋がりを作ることができずに指導期間が終了しています。言友会もありますが、もっと身近なところで、吃音当事者や吃音のお子さんを持つ保護者の方が集える機会があれば良いなあと思っていたので、とても画期的な取り組みだと思いました。児童への直接支援では無い、間接支援という面で、とても良い実践だったと思います。
 - ・保護者に対し、吃音の様々な情報提供をしてはいますが、それらの中のつどいなどに参加することは少しハードルが高いようです。身近なところで話し合いの場があることを求めているように感じていたので、「きつおんカフェ」の実践は、とても参考になりました。
 - ・以前、九州大学病院の菊池良和先生の著書『ボクは吃音ドクターです。』を読み、先生が吃音で悩んでいた時に吃音者の集まりに参加し、自分と同じような症状の人たちとのふれあいや会話の中で心が救われたことを知りました。ことばの教室でも、吃音カフェなどの集まりを通し、当事者や家族が思い

を伝え合う場を持つことがとても大切だと思いました。吃音があるのは自分だけでない、同じ悩みを持つ仲間がいるんだということを知っただけでも心強く、また、同じ立場だからこそその共感、会話も生まれてくると思います。今回の研修で、吃音カフェの詳しいやり方を教えていただき、是非、取り入れていきたいと思っています。しかし、昨今は、該当するお子さんが習い事をたくさんやっていることが多く、時間調整が難しいために、ペア活動ですらできない状況なのが悩みです。保護者にも、今回の研修での成果を知らせ、実現できればと思っています。

- ・成果の中に「ことばの教室を卒業しても繋がれる場があることを知らせることができた」とあり、中学にはことばの教室がないため、どこかと繋がることができることは本人だけでなく保護者にとっても安心となるのでそのような場を私も作ることでよかったらいいなと思いました。
- ・吃音に対しての理解や心構えを伝えることは指導の中で行っているが、経験者の方の生の話が聞ける機会はなかなかないので、大変よい試みだと思いました。吃音児の保護者は、将来が不安なはず。どう付き合っていくとよいのかを情報や知識として知るとは、先が見えるだけでなく、うちの子だけでない、大丈夫、という気持ちになり、心強いと思います。悩みを共有できるだけでも心が軽くなり、吃音の軽減につながるようにも思います。自分たちの教室でも何かできることはないか考えていきたいです。
- ・「吃音カフェ」素敵な空間だと思った。必要を感じつつも、実現できずにいる。吃音児・その保護者には、メリットが大きいだらうと思う。
- ・吃音はその他様々な特性を抱えている児童がいる。その対応についての研修の必要性を感じている。
- ・障害については理解者を増やすことや、一人で悩まないことが健全な親子関係を気付いていく一つの大事な要素だと思います。みんなで気楽に相談し合い、安心できる吃音カフェの取り組みは、多くの地域で求められる実践だと感じました。「カフェ」というネーミングも良いと感じました。
- ・保護者や担当者の交流の場として、「カフェ」の実践が紹介されていた。
- ・ともすると、保護者が孤立し、孤軍奮闘、一人で悩みを抱えてしまうことが考えられる。悩みを共有したり、思いを出し合ったりできる交流の場は、よい試みだと思った。
- ・当事者となる子どもも、この世で自分だけ？と考えてしまう子もいる。子どもの交流もあっていいかな、と思った。
- ・保護者へのアプローチとして取り組めたらいいなといつも思うのみ。対象児が少ないので、市や地域を越えて協力体制ができるといいと思った。内容として、保護者の発信・交流のみでなく、言語以外の担当職員や経験者等のゲストがいたり、他の情報提供やとっつきやすい内容があったりすることがとてもよいと思った。
- ・現在、吃音の子が2名通級しているが、『きつおんカフェ』を開くことで、保護者同士が吃音についての情報交換ができたり、吃音の子のその後（小学校に入学して…、高学年になって…、中学校に進学して…）の様子なども知ることができたりして、ある種の「見通し」をもつことができ、よい場になっていることがわかった。『吃音すごろく』について、どのようなものか調べてみたい。
- ・「きつおんカフェ」のような吃音に対する保護者への支援は、大切だと思いました。園児や小学校低学年児への支援も必要だと思いますが、まずは常に子どもといる、子どもの第1の支援者となる保護者への支援が必要だと感じています。幼児と学齢で連携して一緒に取り組んでいることは参考になりました。計画・準備・時間調整等、大変なこともあると思いますが、時間の許す範囲で取り組んでみていいなと思いました。
- ・吃音をもつ我が子に悩んでいる保護者は、なかなかまわりに同じような立場で相談できる人を見つけにくいので、吃音カフェはとても貴重な取り組みだと思います。通級していなくても、どの学校・園にもいると思うので、広めて行けたら良いと思います。
- ・保護者支援の在り方として理想的な実践であると思う。雰囲気づくりから工夫しているのがよい。
- ・今回の実践から、子どもだけでなく、保護者も不安を抱えていることに気づかされました。その中で、保護者を対象にした「きつおんカフェ」はとても良い取り組みだと感じました。保護者同士で悩みを

共有することで、少しでも心が軽くなると思いました。さらに、そこで知った情報などをもとにすることで、より支援が充実していくと感じます。私自身も、今回紹介されている吃音の映画や動画等を見て、少しでも吃音への理解を深めていきたいと思っています。

- ・保護者交流会「きつおんカフェ」について、保護者の吃音理解が深まったり、吃音への不安が少しでも軽減したりすることができる良い取り組みだと思いました。学齢児童だけでなく、幼児も対象にして交流会をすることも、幅広い発達の視点で吃音を捉えることができ、良いと思いました。「吃音が遺伝するケースがある」ことを別の研修で学びましたが、家族が吃音で自分も吃音だという保護者の感想がいくつもあり、声を直に聴く（資料を通して聴く）ことができ、勉強になりました。年2回の中でも会の内容がとても充実した内容であり、静岡市も参考にしていきたいと思っています。
- ・吃音の子どもや保護者の交流会は、意義のある活動だと思い、自分も行っている。このところ、吃音指導児童の数が減っているのは、周囲の環境が理解あるものになってきているのではないかと、自分なりによい解釈をしているが、悩んでいる親子がいる限り、こうした交流の取り組みは必要だと思うので、少人数でも続ける意味があると思う。参加者が少ないことを課題に挙げていたが、参加しやすい会の日程を調整していくことも一案だろうが、当事者親子が一度でも参加できれば、その親子にとっては実りのある時間だと思うので、参加人数は問題にせず、継続していくことを目指していくとよいと思う。悩んでいる親子がこうした取り組みを知らないということのないように、また、吃音に対する理解を広めていくためにも情報発信（広報）は大事だと思う。吃音当事者の体験談は、指導者にとっても有益であるため、こうした人を招くことができる、「つながり」も指導者にとって大事な力の一つだと思う。地域で、こうした取り組みを続けていきたいと思います。
- ・保護者には様々な不安があるのだと改めて考えさせられた。誰に言えば分かってもらえるか、こんなこと思ってもいいのか、先が見えない、情報が得られない…など。コロナ禍、ネット社会、共働きという状況で、保護者がますます孤立していくのではないかとこの心配があります。そんな中、方法が変わっても保護者の会を止めないで続けていることが、すごいと思います。残したい活動なのではないかと思っています。
- ・自分は発達通級ですが、静岡の言語教室の先生方が連携して「吃音交流会」をされていて、その手応えを聞く機会があります。ずっと前は、親の会主催でも、このような取り組みがあったように思います。県内の状況は今どんな様子なのか知りたいなとも思いました。
- ・氏原先生の実践を読んで、多くの市町の通級に、このような取り組みが広がるのではないかと思います。
- ・今回、保護者向けの交流会の様子を知ることができて、吃音を持つ保護者への対応の参考になった。保護者同士が思いを共有することをはじめ、交流会が正しい知識を得られる場所であったり、具体的な関わり方や支援について学べる場であったりと会の役割の大きさを感じた。
- ・吃音カフェの取り組みは、吃音がある子供やその保護者にとって大切な場だと感じた。通級の指導者は、もちろん子供や保護者に寄り添って関わってはいくが、吃音の当事者ではない。当事者やその保護者が抱える想いを理解し、寄り添いたいと思っていても限界がある。吃音の当事者・保護者同士だからこそ分かり合える想い、素直に言える繋がりを作ることで、通級での指導や在籍学級での生活にもプラスに働くと感じた。
- ・幼児言語教室では、特に就学が近づいてきた年長児の保護者からこの先の不安な気持ちを聞くことが多いです。小学校では、どのようなことが予想されるか、またさらに先にはどのようなことが待っているのか、そのような心配が多く見受けられます。小学生の保護者や当事者の体験談は大変参考になり、また希望がもてることが多いと思います。保護者が前向きになることは、吃音の子供にとっても大切なことなので、吃音カフェの取り組みはとても有効であると感じました。
- ・「きつおんカフェ」の実践は幼児の保護者が児童の保護者からの話を聞けることで、小学校での様子や対応方法を知ることが出来、また入学後の不安軽減にも繋がる有意義な機会であると思う。幼児言語教室でも、保護者同士の交流会や家庭での環境調整のアドバイスなど定期的に行っているが、将来

に対する不安は大きいと思われる。そのため入学後の様子や体験談が聞けると（例えば運動会などの行事前は吃音が出やすいなど）環境調整や見通しが立てやすくなるのではないかと感じた。子どもの気持ちに寄り添うのと同時に、保護者の悩みや不安の軽減も並行して行っていくことが重要であると思う。

- ・ありのままの実践例の紹介をありがとうございました。
- ・吃音のある子どもの指導だけではなく、吃音のある子どもをもつ保護者が、吃音についての理解を深めていくことも一種の環境調整であることを改めて感じます。保護者の悩みや不安に寄り添える吃音カフェは貴重な場だと感じました。
- ・保護者の考えが変わったことで子どもの家庭での吃音がどう変化したのかが気になります。「子への対応の仕方がこのように変わった」といった事例があれば教えていただきたいです。
- ・保護者だけでなく、その子に関わる担任など現場の先生方にも吃音について知ってもらいたいと思っている。
- ・共通の悩みをもつ保護者が集まり交流を深めることにより、不安の軽減につながっていると感じました。気軽に参加できるつながる場として、「きつおんカフェ」が今後も続き、他の地域にも広がると良いなと思いました。
- ・素晴らしい取組だと思います。できれば、発達でも行いたいと思います。しかし、中学生となると通級に通っていることを隠したがる生徒や親もいるので、通級の意義や理解を今後、さらに広めていくことが求められていると思いました。
- ・小学校の場合、吃音のある児童に困り感がなくても、保護者に不安感があることが多いため、「吃音カフェ」で、保護者の吃音に対する理解を深め不安を軽減する取り組みは素晴らしいと思いました。
- ・ゲスト経験談という形で、吃音のある人の体験談が聴ける機会を設定したということは、貴重な場だったと思います。大人になった現在の話を聴くことで、保護者の安心感に繋がったと思います。
- ・幼児ではさらに自分の困り感というより保護者の困り感で相談に見えます。吃音当事者の困り感は思春期以降に顕著になると思いますが、現在吃音は言語通級対象となっています。本当に支援が必要な中学校では言語通級はほとんどないのではないのでしょうか。思春期以降まで支援できるような体制が必要だと感じています。吃音カフェのような取り組みがあれば、保護者が支援者となっていけるのではと思いました。
- ・「きつおんカフェ」の取り組みを初めて知りました。いろいろな話をしたり、聞いたりすることで情報共有や不安感の軽減ができていて素晴らしいと思いました。
- ・保護者の不安を見事に解消できるし、指導者側も実態把握できるととても素晴らしい交流の仕方だと思った。
- ・子供の安定は、保護者のかかわりが大きいと思う。保護者をサポートする大事な実践だと思う。吃音のある子を持つ保護者同士のつながりや、大勢で吃音について話をする機会がないため、このような交流は、保護者や担当者にとって有意義だと思う。
- ・吃音の子供を持つ保護者の気持ちに寄り添った、素晴らしい取り組みだと思いました。前任校でも、幼児ことばの教室担当を中心に定期的に行っていました。その時も、吃音の幼児を持つ保護者からは就学後の相談があり、児童担当であった自分が質問に答える形態で行ったことを記憶しています。先日も、吃音のある3年生の女子（幼児で退級）が、同じクラスの男子に吃音をからかわれたり登校班の下級生から「どうしてそんな話し方なの？」と尋ねられたりしたことで吃音頻度が上がり、ひどく落ち込む姿が見られたとの連絡を受けました。学級担任と学年主任と連携しながら、本人の思いを大切に環境調整をしたところ、直ぐに吃音がほぼ認められない状態にまで落ち着きました。共通の「吃音」という悩みを持つ子供が自分の困り感を話せたり、保

護者が気軽に情報交換ができたりする場の充実は、心の安定のために必要不可欠であると感じました。

- ・吃音のお子さんや保護者さんは繊細な方であることも多く、ちょっとしたきっかけから不安に感じると普段の生活へ影響がでることもあることから、吃音カフェを通して悩みを打ち明けたり、どんな対処が効果的かなどの共有ができることがよいと思いました。コロナのために、集まる場の設定が難しい状況ですが、不安の軽減や適切な対応を知ることや思い切って話してみる経験は吃音を含む課題解決のためのきっかけの一つとして有効だと思いました。
- ・以前、吃音カフェを実施しようと計画を立てましたが、コロナで中止になってしまいました。保護者と担当者が集まって、吃音について話し合う場をもつことはとても有意義なことだと思います。仕事をされている保護者が多く、日程調整が難しくなっていますが、この実践を読んでまた計画できたらと思いました。
- ・保護者の感想を拝見し、体験談を聞いたり悩みを共有したりすることが、保護者を勇気づけ悩みを軽減することが伝わってきました。
- ・以前、吃音の親子の会を開催していた時、保護者グループと子供グループに分けて活動をしたケースがありました。保護者は吃音関係の動画を見てフリートークをしたり経験談を話したりしました。吃音をもつ子供たちの集まりは年齢の幅が大きく（幼児～小学校高学年）、全員が楽しめるような活動を企画するのに少し苦勞をしました。教室単独ではなく、近隣の学校と合同開催して、年齢幅を必要に応じて狭めたり広めたりしてより効果的な支援が図れるといいなと思います。
- ・通級によって吃音が治るのではないかと大きな期待をしている保護者は、このような会に参加してもなかなか「治す」という発想から離れられず、会への参加から足が遠のく場合が多いように感じます。このような保護者も参加してみたいと思うような素敵なお会が用意できたらいいなと思います。
- ・通級OBの保護者が講話をしてくれた時は、「吃音があってもいいんだよ。」「今、こんな風に生きてるよ。」という自然で説得力のあるメッセージがあり、開催して本当に良かったなあと感じました。
- ・以前より、氏原先生が取り組んでる「きつおんカフェ」について詳しく知りたいと思っていたので、とても参考になりました。コロナが落ち着いてきたら、本校でも真似をしてみたいと思いました。
・悩みを保護者同士で話し合う機会はあまりないと思うので、保護者同士のつながりもできてよい取り組みだと思いました。
- ・吃音の保護者同士が会うことはなかなかないと思うので、とてもいいと思いました。保護者にとってはいろいろな情報交換ができ、今後の参考になるのではないかと思います。
- ・吃音の情報交換をしたりすることで保護者の不安を取り除く良い場所だと思いました。・以前から、「きつおんカフェ」は保護者にとっても、私たち指導者にとっても良いものだなあと感じていました。今回の発表でますますそう思いました。コロナ禍がおさまったら計画してみたいです。ありがとうございました。
- ・コロナ禍になる直前、初めて吃音を話し合う会の開催を決めましたが、行う前に中止となってしまいました。2年延期しています。行える日が来ることを願っているところです。ぜひ、吃音カ

フェのように日常できるようになってほしいと思っています。参考にさせていただきたいと思います。

- ・きつおんカフェの様子がとてもよく分かりました。保護者自身も悩んでいるのは自分だけではないということを知ったことはとても心強かったと思います。きつおんについて知らない人も多いので、悩みもなかなか話す場所がないと思います。話をしたり聞いたりしていく場があることで、少しずつ気持ちが整理できていくと思いました。・本校では、このところコロナ禍できつおんカフェが開けていません。担当者にとっても、保護者さんの色々な話をじっくり聞ける機会が失われていると感じました。
- ・吃音すごろくとあり、言友会のHPを見てきました。「すごく、すごろく」のことかなと思いました。本教室でも来年度買ってみようかと思いました。
- ・子どもへの指導同様、保護者の不安を軽減していくことは、とても大切な活動だと思った。本教室でも、年1回の保護者会（おしゃべり会と講師を招いての話）を行っている。
- ・吃音に関わる人たちが集う「吃音カフェ」は大変参考になりました。様々な立場の方々との交流の大切さを改めて感じました。
- ・園から小学校に上がる時、保護者の方は一番心配される場所だと思います。小学校との連携の仕方をよく考えていかななくてはと思いました。
- ・吃音に関する悩みは、千差万別、人によって違うので対応の難しさを感じています。このようなつながれる場が必要だと改めて感じました。
- ・「吃音カフェ」という保護者支援の方法は、通級だからこそできる支援だと思っていたが、実際にどのように取り組んだらいいか分からなかった。今回、具体的に詳しく示していただき理解が深まった。保護者の意見も参考になった。
- ・吃音理解を深めながら、不安を軽減できる場を設定し、実施されている先生の実践内容がよくわかる発表でした。

本校には、2年生の児童1名が、吃音で通級しています。小規模校の単級に通っており、周りの子は幼稚園から児童のことをよく知っているため、本人は今のところ吃音があることによる対人関係にさほど不安を感じておりません。ただ、心身ともに成長過程にあり、吃音の通級も一人だけということで、今後の指導の方法について、より多面的なアプローチの必要性を感じていました。ですので、貴校で開催されている「きつおんカフェ」はとても有意義な取り組みであり、保護者、通級教室担当教諭にとって、とても素晴らしい交流と学びの場になってなっていると感じました。本校でもできることを、少しでも取り入れていけたらと思います。ありがとうございました。

- ・お母さん同士のつながり、子供の理解、の両方を深めるよい方法だと思います。
- ・当事者（小さいころ吃音があった人、今も吃音があるが、社会人として生活している人等）にお話を聞くのもよいと思いました。
- ・気軽に誰でも参加できる雰囲気がよく、続けていってほしいと思いました。
- ・当事者の子ども同士がつながりをもてるのがよいと思いました。
- ・幼児は子供よりも親の心配や不安感が強いことが多いので、吃音カフェはとても有意義だと思う。
- ・当事者グループよりも参加しやすく、保護者ならではの悩みを共有できる有意義な活動であることが参加者の感想から分かった。